



# 青南だより

令和3年 2月号

港区立青南幼稚園

園長 新山 裕之

## <語りで想像の世界へ>

右の写真は、感染対策を講じて行った先日のお話ろうそくの崎山先生による「語り」の場面です。絵本やパネルシアターなど多彩な演目の中でも、やはりメインはこの「語り」です。年長児になると10分程度の語りを聞くこともできるようになります。流れるように語られるお話に耳を傾け、その言葉から想像力を膨らませ、頭の中に映像を描いていきます。微妙な表情の変化から、頭の中でイメージが膨らんでいるのが分かります。アニメなどと違い、集中力や想像力も養われ、人と関わる力の育ちにもつながるのです。



お話ろうそくの崎山先生による「語り」

## <みんなが分かるストーリーの大切さ>

崎山先生のお話ろうそくも、担任が毎日読み聞かせている絵本や紙芝居も、子どもたちの興味や育ちに合ったものを丁寧に選んで提示しています。その後の遊びや生活への刺激として読み聞かせていくこともあります。生活発表会を意識して、様々な絵本を読み聞かせ、それらが劇遊びにもつながっています。このように生活を共にするみんなが分かって、誰もがイメージを共有できるという意味でも、絵本はとても重要なのです。



昔遊びの会では地域の方々との  
触れ合いを通して心の根っこが育ちます

## <身近な出来事を通して心を育てる>

幼稚園では、他にも身の回りで起こる出来事をみんなの共通体験として大事にしています。大寒の日には、暦通りの厳しい寒さで、わくわく池が全面凍っていました。池の周りに子どもたちが次々とやってきて、氷との出会いを楽しみました。この池を巡っては、これまでもたくさんの出来事があり、それをきっかけに友達同士の豊かな関わりや様々な遊びが生まれました。この誰もが分かる共通体験があることで、イメージがつながりやすく、子どもたちの力で遊びが充実していくのです。このような身の丈に合った遊びを通して、一人一人の心を丁寧に育てています。



今日は寒いからきつと凍っているはず！



まさに大寒の日、わくわく池が全面結氷！

・・・如月(きさらぎ)・・・

青南の  
二十四節気

立春(3日) …よもぎが柔らかい芽を出し始めます…

雨水(18日) …ハクモクレンの蕾がふくらんできます…

柿の木へのお礼肥の話から始まり、腐葉土を作る「土工場」を作ろうという楽しい取り組みが始まっています。裏庭の柿の木の横に、お風呂くらいの穴を子どもたちと一緒に掘って、かえでなどの落ち葉を集めて入れています。さて、これからどんなことが起こるか楽しみです。

今年は2月2日が節分という珍しい暦となります。豆まきをして鬼を追い払うと、翌日は立春です。裏庭には、フキノトウが芽を出していて、寒さの中にも少しずつ春の足音が聞こえてきています。皆さんも、身の回りで小さな春を探してみませんか。



裏庭にはフキノトウが顔を出しています